

乳幼児をもつ母親の生きがいと
育児不安および時間的展望との関連

-ライフコースからの検討-

宮本 純子

Relation between ikigai and
childcare anxiety and time perspective : From life course

Junko Miyamoto

Abstract

We surveyed 1449 mothers who have small children and classified their life courses into 4 groups. Group I : a group of mothers who have been working. Group II : a group of mothers who once stopped working but are now working. Group III : a group of mothers who have no intention to work but to stay at home to keep house hold. Group IV : a group of mothers who have stopped working but intend to work when children grow up. Ikigai is classified into 4 factors. A : work, hobbies and etc., B : childcare, C : childcare and work, hobbies and etc., D : searching for ikigai. We examined these 4 groups on the relation between ikigai and the viewpoint of childcare anxiety and time perspective. In all groups mothers who have only ikigai of childcare or who have multiple ikigai including childcare have lower childcare anxiety than mothers who are searching for ikigai. Group II : mothers who have multiple ikigai including childcare reduce childcare anxiety and expand their time perspective. It is important to balance childcare and work. The relation between ikigai and childcare anxiety and time perspective depends on which group a mother belong to.

Keywords: ikigai, childcare anxiety, time perspective, life course

1. 問題と目的

「育児不安」とは一時的あるいは瞬間的に生ずる疑問や心配ではなく、持続し、蓄積された不安の状態を問題にし、「子の現状や将来あるいは育児のやり方や結果に対する漠然とした恐れを含む情緒の状態」と定義されている（牧野，1982）。原田（2008）は、この 20

年の間、母親が受けるサポートが以前より増えたにもかかわらず、母親のイライラ感が増大し、育児不安が軽減されていないことを報告した。現代の母親たちは「親としての役割を担うこと」と自分自身の「自己実現」の狭間で悩んでいると指摘し、その悩みは、夫のちょっとした手伝いや近所の話し相手の存在などでは解決されないほど、人生の根幹にかかわる根が深いものであると述べた。原口ら（2005）も、今日の母親たちは“子育てをしたい”と同時に“自分の生き方を大切にしたい”という葛藤が生じる傾向が高く、その結果、育児を肯定的に捉えることが困難となり、育児不安を喚起する要因となっていることを示した。柏木（2001）も、女性＝母親・妻ではもはや幸福な一生とはならないという現代女性の心の変化について述べている。

近年、女性のライフコースは多様化し、女性の生き方の選択の可能性が広がった。出産後も就業を継続し、育児と仕事に並行して取り組む継続就業コース、母親や出産・育児後に再就職する再就職コース、就業をやめ専業主婦コースなどがある。それぞれのライフコースを選択した女性たちは、それぞれが望む幸福な一生をどのように送ろうとしているのだろうか。

鶴田（1998）は「よく生きる」とは、自分の生きる意味を探求しつつ、その人なりの「生きがい」を持って自分の人生を歩んでいくことだと述べた。神谷（1996）も人間がいきいきと生きて行くために、生きがいほど必要なものはないと述べている。生きがいを持って生きるとは、生きている価値や喜びを感じ、生きていることに手応えや張り合いを感じて生きていることと考えられる（平子，2021）。育児期の女性はそれぞれの選択したライフコースの中でどのような生きがいを持ち日々を充実させようとしているのか。あるいは、どのようなことに生きがいを感じて日々を送っているのだろうか。育児期の女性が日々の生活に生きがいを感じ生き生きと過ごすことができれば、子育てと自己実現への葛藤も緩和され、育児不安も軽減される可能性があるのではないだろうか。また、育児不安は育児期の母親の時間的展望と関連があることがすでに明らかになっている（宮本，2007）。育児不安が生きがいと関連をもつならば、育児期の母親の時間的展望も生きがいと関連をもつと推測される。時間的展望とは、“ある一定の時点における個人の心理学的過去および未来についての見解の総体”と定義される（白井，1995）。未来の側面に関しては、いわゆる“みとおし”を指す。時間的展望の獲得とは、より遠くの将来や過去の事象が現在の行動に影響を及ぼすという時間的展望の広がりが増大すること、将来に希望を持ち現在の生活に充実を感じ過去を受容するという時間的展望の感覚を持つことを言う（白井，1991）。現在の生活の中で生きがいを見いだすことは、未来に広がりを感じ、さらにその充実感が過去の受容にも繋がるとしたら、生きがいは時間的展望の獲得に大いに貢献するであろう。

そこで本研究では、乳幼児をもつ母親がどのような生きがいを持つことにより、育児不安の軽減や時間的展望の獲得に関係するのか、ライフコース別に検討することを目的とする。その際、育児期の母親に子育てと自己実現の葛藤があることが先行研究（原口ら，2005）で述べられているため、子育ておよび仕事や趣味や社会活動などに着目して生きがいを分類する。

2. 方法

(1) 調査対象者

A市の乳幼児を持つ母親 1726名（公民館の育児サロンに参加している母親 803名，保育園に子どもを通わせている母親 923名）を対象とした。平均年齢は 34.20歳（SD 5.48）であった。子どもの数は，1人が 49.13%，2人が 37.60%，3人以上が 13.27%であった。1726名のうち欠損値を除いた 1499名を分析対象とした。

(2) 調査手続き

2010年9月から12月に，A市内の公民館と保育園に質問紙調査を依頼した。公民館は主事に質問紙の配布を依頼し，後日，筆者が直接回収した方法と郵送で回収した2通りの方法をとった。保育園は先生に質問紙を依頼し2週間後に回収した。なお，研究協力の依頼文に，研究目的，回答内容が漏れないこと，個人が特定されないことを明記した。

(3) 調査内容

育児不安を測定する項目 宮本（2013）の作成した育児不安尺度を使用した。この尺度は，育児行為の中で持続し蓄積された不安の状態を問題とした牧野（1982）の育児不安尺度に岩田（2000）の母親の不安尺度などを加え，新たにつくられたものである。“閉塞感・犠牲感”，“疲労感”，“自信のなさ”，“離反願望”の4因子からなり，代表的な項目は，順に“子どもとばかりいて孤立した感じがする”“毎日くたくたに疲れる”“自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある”“子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある”である。全17項目4件法である。育児不安項目の α 係数は.79であり，十分な信頼性と考えられた。

時間的展望を測定する項目 白井（1994）の作成した時間的展望体験尺度を使用した。この尺度は，“現在の充実感”，“目標指向性”，“過去受容”，“希望”の4因子からなり，代表的な項目は，順に“毎日の生活が充実している”“私には，だいたいの将来計画がある”“過去のことはあまり思い出したくない”（逆転）“私には未来がないような気がする”（逆転）である。全18項目5件法である。 α 係数は，第1因子から順に.83，.78，.78，.80であり，十分な信頼性と考えられた。

ライフコースを問う項目 就業継続型，再就職型，専業主婦型の三つの型（内閣府，2006）をⅠ就業継続型，Ⅱ再就職型（すでに現在就業している），Ⅲ専業主婦型（今後ずっと専業主婦の予定），Ⅳ再就職希望型（育児がひと段落してから就業希望）の四つの型に変えた。育児期の母親がすでに再就職している場合と，子どもがもう少し大きくなってから再就職しようと考えている場合では，母親の状況が違うため，区別して検討し援助の視点を得ることが適切と考えた。

生きがいを問う項目 「仕事」「子育て」「趣味」「地域活動」「その他」「模索中」の中から生きがいに該当するものに○をつけて（複数可）もらった。

3. 結果

ライフコース別に生きがいの種別による育児不安合計得点, 時間的展望合計得点と下位尺度得点の平均値と標準偏差を算出し, 分散分析実施後, 多重比較を行った。生きがいの種別は, 生きがいを子育て以外(仕事, 趣味, 地域の活動など), 子育てのみ, 子育てを含む複数の生きがい(子育てと子育て以外), 模索中とした。

(1) ライフコース別生きがいによる育児不安の検討

生きがいによる育児不安の検討では, 就業継続型において, 生きがいを子育てのみあるいは子育てを含む複数を生きがいとしている母親は模索中の母親よりすべての育児不安下位尺度得点および育児不安合計得点が低いことが示された(表1)。

再就職型においては, 子育てのみを生きがいとしている母親は, 模索中の母親より疲労感を除くすべての育児不安下位尺度得点および育児不安合計得点が低く, 子育て以外を生きがいとしている母親より疲労感と自信なさを除くすべての育児不安下位尺度得点および育児不安合計得点が低かった。また, 子育てを含む複数を生きがいとしている母親は模索中の母親と子育て以外を生きがいとしている母親よりすべての育児不安下位尺度得点および育児不安合計得点が低く, 子育てのみを生きがいとしている母親より疲労感得点が低いことが示された(表1)。

専業主婦型において, 生きがいを子育てのみあるいは子育てを含む複数を生きがいとしている母親は, 生きがいが模索中の母親より疲労感得点を除くすべての育児不安下位尺度得点および育児不安合計得点が低かった(表1)。

再就職希望型において, 子育てを含む複数を生きがいとしている母親は子育て以外を生きがいとしている母親や模索中の母親より自信なさ得点と育児不安合計得点が低かった。子育てのみを生きがいとしている母親は離反願望得点と育児不安合計得点が低いことが示された(表1)。

表1 ライフコース別生きがい別育児不安得点の平均値と標準偏差及びF値

	生きがい 種別	A	B	C	D	F値	多重比較 5%
		子育て以外 (仕事, 趣味)	子育てのみ	子育て+ (仕事, 趣味)	模索中		
I 就業 継続 型	N	22	79	299	111		
	閉塞感・ 犠牲感	1.90 (.59)	1.97 (.56)	1.94 (.60)	2.20 (.61)	5.61***	B,C<D
	疲労感	2.89 (.52)	2.69 (.67)	2.72 (.55)	2.97 (.57)	6.10***	B,C<D
	自信なさ	2.64 (.50)	2.55 (.53)	2.55 (.52)	2.83 (.60)	7.58***	B,C<D
	離反願望	2.73 (.49)	2.27 (.65)	2.49 (.63)	2.87 (.52)	17.32***	B,C<D
	育児不安得点	2.45 (.34)	2.33 (.40)	2.36 (.43)	2.65 (.42)	14.16***	B,C<D
II 再 就 職 型	N	23	74	221	83		
	閉塞感・ 犠牲感	2.49 (.81)	2.09 (.57)	2.05 (.60)	2.41 (.62)	9.38***	B,C<A,D
	疲労感	3.00 (.70)	2.90 (.59)	2.67 (.51)	2.95 (.56)	7.91***	C<A,B,D
	自信なさ	2.99 (.66)	2.66 (.62)	2.62 (.53)	2.98 (.53)	10.43***	B,C<D C<A
	離反願望	3.04 (.59)	2.49 (.64)	2.65 (.60)	2.99 (.59)	12.21***	B,C<A,D
	育児不安得点	2.83 (.56)	2.48 (.48)	2.44 (.44)	2.77 (.44)	14.38***	B,C<A,D
III 専 業 主 婦 型	N	10	119	112	91		
	閉塞感・ 犠牲感	2.52 (.55)	2.16 (.58)	2.20 (.71)	2.48 (.52)	5.79***	B,C<D
	疲労感	2.48 (.43)	2.55 (.60)	2.56 (.59)	2.68 (.48)	1.17	
	自信なさ	2.88 (.36)	2.63 (.52)	2.62 (.59)	2.85 (.55)	4.14**	B,C<D
	離反願望	3.13 (.55)	2.59 (.68)	2.71 (.67)	2.88 (.58)	4.92**	B,C<D
	育児不安得点	2.70 (.38)	2.44 (.46)	2.47 (.53)	2.68 (.39)	5.79***	B,C<D
IV 再 就 職 希 望 型	N	9	87	92	67		
	閉塞感・ 犠牲感	2.57 (.58)	2.20 (.71)	2.15 (.57)	2.38 (.62)	2.69*	
	疲労感	2.83 (.47)	2.51 (.58)	2.49 (.56)	2.66 (.49)	2.17	
	自信なさ	3.00 (.43)	2.60 (.46)	2.51 (.47)	2.72 (.53)	4.27**	C<A,D
	離反願望	3.04 (.54)	2.38 (.64)	2.54 (.58)	2.78 (.66)	7.01***	B<A,D
	育児不安得点	2.82 (.30)	2.38 (.43)	2.38 (.42)	2.60 (.45)	6.15***	B,C<A,D

()内は標準偏差, ***P<.001, **P<.01, *P<.05

(2) ライフコース別生きがいによる時間的展望の検討

生きがいによる時間的展望の検討では、就業継続型において子育て以外を生きがいにして
いる母親は模索中の母親より将来の目標指向性得点が高かった。子育てのみを生きがいにして
いる母親は、模索中の母親より現在の充実感得点、将来の目標指向性得点および時間的展
望合計得点が高かった。子育てを含む複数を生きがいとしている母親は模索中の母親より過
去の受容を除くすべての時間的展望下位尺度得点および時間的展望合計得点が高く、子育て
以外を生きがいとしている母親より過去の受容得点が高いことが示された（表2）。

再就職型においては、子育てのみを生きがいとしている母親は、模索中の母親より現在の
充実感得点と将来の目標指向性得点が高かった。また、子育てを含む複数を生きがいとして
いる母親は模索中の母親より過去の受容を除くすべての時間的展望下位尺度得点および時
間的展望合計得点が高く、子育て以外を生きがいとしている母親より将来の目標指向性を除
くすべての時間的展望下位尺度得点および時間的展望合計得点が高い。さらに子育てのみを
生きがいとしている母親より現在の充実感を除くすべての時間的展望下位尺度得点および
時間的展望合計得点が高いことが示された（表2）。

専業主婦型において、子育てのみを生きがいとしている母親は、模索中の母親より現在の
充実感得点および時間的展望合計得点が高かった。子育てを含む複数を生きがいとしている
母親は模索中の母親より過去の受容を除くすべての時間的展望下位尺度得点および時間的
展望合計得点が高かった。さらに子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以
外を生きがいとしている母親と子育てのみを生きがいとしている母親より将来の目標指向
性が高いことが示された（表2）。

再就職希望型において、子育てのみを生きがいとしている母親と子育てを含む複数を生き
がいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親と模索中の母親より現在の充
実感得点が高かった。また、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は模索中の母親よ
り時間的展望合計得点が高いことが示された。将来の目標指向性、過去の受容、将来の希望
において生きがいの種別に有意差がないことも示された（表2）。

表2 ライフコース別生きがい別時間的展望得点の平均値と標準偏差及びF値

	N	A	B	C	D	F値	多重比較 5%
		子育て以外 (仕事, 趣味)	子育てのみ	子育て+ (仕事, 趣味)	模索中		
I 就業 継続 型	N	22	79	299	111		
	現在の充実感	3.62 (.85)	3.77 (.65)	3.85 (.69)	3.24 (.74)	21.07***	B,C>D
	将来の目標指向性	3.49 (.88)	3.30 (.83)	3.51 (.77)	2.83 (.81)	20.08***	A,B,C>D
	過去の受容	3.42 (1.06)	3.77 (.84)	4.02 (.80)	3.83 (.86)	5.32**	C>A
	将来の希望	3.99 (.81)	3.89 (.69)	4.09 (.68)	3.67 (.80)	9.80***	C>D
時間的展望得点	3.62 (.71)	3.67 (.55)	3.84 (.55)	3.35 (.61)	20.52***	B,C>D	
II 再 就 職 型	N	23	74	221	83		
	現在の充実感	3.08 (.94)	3.44 (.78)	3.68 (.71)	2.99 (.81)	18.58***	B,C>D C>A
	将来の目標指向性	3.14 (1.04)	3.09 (.96)	3.41 (.87)	2.72 (.85)	12.72***	B,C>D C>B
	過去の受容	3.29 (1.05)	3.54 (1.02)	3.90 (.86)	3.77 (.83)	5.44**	C>A,B
	将来の希望	3.41 (1.06)	3.64 (.88)	4.08 (.66)	3.50 (.93)	15.91***	C>A,B,D
時間的展望得点	3.22 (.88)	3.41 (.75)	3.74 (.59)	3.20 (.64)	17.78***	C>A,B,D	
III 専 業 主 婦 型	N	10	119	112	91		
	現在の充実感	3.50 (.71)	3.69 (.71)	3.71 (.76)	3.31 (.64)	6.77***	B,C>D
	将来の目標指向性	2.58 (.69)	3.06 (.86)	3.40 (.83)	2.84 (.64)	10.08***	C>A,B,D
	過去の受容	4.03 (.95)	3.76 (.90)	3.69 (.98)	3.69 (.74)	0.58	
	将来の希望	3.63 (.73)	3.91 (.69)	4.10 (.71)	3.71 (.66)	6.12***	C>D
時間的展望得点	3.39 (.41)	3.58 (.57)	3.70 (.64)	3.35 (.45)	6.98***	B,C>D	
IV 再 就 職 希 望 型	N	9	87	92	67		
	現在の充実感	3.00 (.62)	3.79 (.64)	3.83 (.66)	3.37 (.71)	10.28***	B,C>A,D
	将来の目標指向性	3.07 (.50)	3.18 (.76)	3.33 (.80)	3.06 (.70)	1.71	
	過去の受容	4.03 (.70)	4.04 (.86)	3.91 (.85)	3.99 (.80)	0.40	
	将来の希望	3.97 (.76)	4.05 (.67)	4.21 (.60)	3.99 (.65)	1.92	
時間的展望得点	3.46 (.47)	3.73 (.53)	3.79 (.56)	3.56 (.48)	3.27*	C>D	

()内は標準偏差, ***P<.001, **P<.01, *P<.05

4. 考察

育児期の母親の生きがいを子育てとしているのか、あるいは子育て以外の仕事や趣味などに行っているのか、あるいは子育てを含めた複数の生きがいを持っているのか、模索中なのかという視点から、育児期の母親の育児不安の程度や時間的展望の獲得をライフコース別に検討した。生きがいの種別による育児不安の程度や時間的展望の獲得は、ライフコースによって違いが示唆された。

(1) ライフコースからみた生きがいによる育児不安

就業継続型において、生きがいを模索中の母親は生きがいを子育てのみあるいは子育てを含む複数を生きがいとしている母親より育児不安が高いことが示された。生きがいを模索中の母親は、就業を継続しながら仕事が生きがいにならず、子育ても生きがいにならず、よりよく生きるために何かを求めている状態で、その不安定な状況は育児不安を高めることが示唆された。育児不安は人生不安である（田中，2001）という先行研究を支持した。

再就職型において、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親や子育てのみを生きがいとしている母親より疲労感が低かった。また、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親より閉塞感・犠牲感、自信なさ、離反願望が低いことが示された。再就職型の母親は、子育てに生きがいを感じるだけでなく、仕事や趣味など子育て以外のことなど複数のことに生きがいを感じるということが育児不安軽減に繋がるということが示唆された。近年、ワークライフバランスという考え方が注目されている。ワークライフバランスとは、人間の生活を仕事すなわち有償労働とそれ以外の部分に分けたうえで、個人がその二つをバランスの取れた状態で両立できる状態（下田ら，2021）を指す。再就職型の母親の場合、子育てを含む複数を生きがいとしていることが育児不安軽減につながるという結果が示されたことをふまえると、ワークライフバランスを特に意識して生活することが重要になると考えられる。再就職に伴う生活リズムの変化や心理的緊張と疲労に伴うストレスは他のライフコースに比べ高いことが予想される。ワークライフバランスを調整すること、そのための周囲からのサポートや夫の協力などを如何に得ていくかという視点からのアプローチも必要になるだろう。

専業主婦型において、生きがいを模索中の母親は生きがいを子育てのみあるいは子育てを含む複数を生きがいとしている母親より閉塞感・犠牲感、自信なさ、離反願望が高かった。専業主婦が育児に生きがいを感じるができず、趣味や地域活動などにも生きがいを見いだすことができずに生きがいを模索しているならば、育児不安が高いことが示唆された。名越ら（1997）の母親のライフコースと育児不安の程度との関連の調査では、結婚・出産前に専業主婦を希望していた母親群が、他のライフコースを希望していた母親群と比較して育児不安の程度が有意に高く、就業希望に変わっていることを明らかにしている。武田（1998）は母親になったこと、育児中心の生活になったことによって、これまで自分自身が価値をおいていたものが失われていくという喪失感を指摘している。希望して専業主婦というライフコースを選択したものの、自分の価値を見出せるような生きがいを獲得することが難しく、

ライフコースを変えざるを得ない母親への支援も必要ではないだろうか。

再就職希望型において、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親や模索中の母親より自信なさが低いことが示された。趣味などの子育て以外の生きがいを持つだけでなく、子育てにも生きがいを感じているということが、育児の自信に繋がっている。また、子育てのみを生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親や模索中の母親より離反願望が低いことが示された。再就職希望型の母親の場合、いずれは再就職したいと思いつつも、現在は子育てに専念できているという状況が育児不安を軽減していると考えられる。再就職を希望する母親にとって、子育てに生きがいを感じるか否かが育児不安緩和の重要な視点となっており、今、現在の生活を充実させることの大切さが示唆された。

(2) ライフコースからみた生きがいによる時間的展望

就業継続型では、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、模索中の母親より現在の充実感、将来の目標や希望が高く、子育て以外を生きがいとしている母親より過去受容が高いという結果が出た。共働きの母親の場合は子ども誕生後に生きがい感が低下する割合が高い(熊野, 2018)と報告されている。生きがい感が低下するのは、子育てと仕事の両立の困難なネガティブ状況を受容し対処する程度が低いと述べられている。そのような状況の中で子育てと仕事の両方に生きがいを感じることができるということは、現在を肯定して意味を見出していることにも通じ、過去の受容を高めることに繋がったと考えられる。

再就職型では、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は子育て以外を生きがいとしている母親より現在の充実感が高く、子育てのみを生きがいとしている母親より将来の目標指向性が高いことが示された。さらに、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親や子育てのみを生きがいとしている母親より過去の受容や将来の希望も高いことが明らかになった。再就職型の母親が複数の生きがいを持つように意識することは、過去から現在未来を肯定的に受け止めることに繋がることを示唆された。再就職型の母親は、子育てをしながら新たな仕事を再開し忙しいことが予想される。熊野(2018)は、共働きの母親は子育てや仕事に追われて自分の人生実現や充実感の伴った毎日を送ることが難しいと述べている。そのような生活の中でも育児や仕事など複数の役割に生きがいを見いだそうとする姿勢が、再就職型の母親の時間的展望の獲得につながることを示唆された。

専業主婦型は、子育てを含む複数を生きがいとしている母親は、子育て以外を生きがいとしている母親や子育てのみを生きがいとしている母親より将来の目標指向性が高いことが示された。専業主婦にとって、生きがいというのは子育てのみでもなく、また趣味や地域活動などということでもなく、子育てを生きがいとしつつ趣味や地域の活動など子育て以外のほかのことにも興味をもち生きがいとなっていることが、10年くらい先の自分を想定して目標を立てる時に重要であることが示唆された。子育て期に数年後の自分の姿に展望を持っていないという不安を抱く母親が存在する(大日向, 2002)ことから、子育てを含む複数の生き

がいを持つことは人生不安の予防, つまり育児不安の予防にもなるであろう。また, 百瀬 (2009) は専業主婦は職業人役割がないため, 「個人として生きる」ことが実現しにくく, 個として生きる志向が強いほど現状では個として生きることが実現できず, 自尊感情が低くなっていると報告している。個として生きるだけではなく, 子育ても含めて生きがいを見いだすことが自尊感情を高めることにもつながると言えよう。

再就職希望型において, 生きがいを子育てのみあるいは子育てを含む複数を生きがいとしている母親は仕事や趣味などに生きがいを感じている母親や模索中の母親より現在の充実感が高いことが示された。再就職希望型の母親にとって, 子育てが生きがいに含まれないことは, 現在の充実感につながらないことが示唆された。しかし, 現在の充実感以外は, 過去や未来は生きがいが子育てであろうとなかろうと模索中であろうと, 生きがいの種別には関係がないことが示された。再就職という厳しい現実の中で将来の展望を見出せるかどうかという課題を解決していくには, 生きがいとは違う視点からアプローチする必要性も示唆された。

5. 今後の課題

本研究では, 乳幼児をもつ母親の生きがいの種別による育児不安の程度や時間的展望の獲得について検討してきた。生きがい模索中の母親はどのライフコースにも一定の割合で存在し, 育児不安も高く, 過去から現在未来を肯定的に受け止めにくいことが示唆された。この模索中の母親の実態を面接調査などで知ることは重要であろう。原田 (2008) が乳幼児をもつ母親の悩みは, 人生の根幹にかかわる根が深いものであると述べたように, 母親がより良く生きるために何を求めているのか把握し, 援助の方法を検討することが必要である。

引用文献

- 原口由紀子・松浦治代・矢倉紀子・佐々木くみ子・笠置綱清 (2005). 母親の個人としての生き方志向と育児不安との関連 小児保健研究, 63(2), 265-271.
- 原田正文 (2008). 子育ての過去・現在・未来 そだちの科学, 10, 33-37.
- 平子侑里絵 (2021). 「生きがい」を感じる主観的体験について—神谷美恵子の「生きがい」概念とウィニコットの「創造的生」に関する概念の再検討— 京都大学大学院教育学研究科付属臨床教育実践研究センター紀要, 24, 88-99.
- 岩田美佳 (2000). 現代社会の育児不安 家政教育社
- 神谷美恵子 (1996). 生きがいについて みすず書房
- 柏木恵子 (2001). 子どもという価値, 東京, 岩波書店
- 熊野道子 (2018). 乳幼児の父親・母親における子ども誕生後の生きがい感の変化—生きがい感に対する考え方と生きがいプロセスからの検討— 大阪大谷大学紀要, 52, 121-135.
- 牧野カツコ (1982). 乳幼児をもつ母親と〈育児不安〉 家庭研究所紀要, 3, 35-56.

- 宮本純子 (2007). 乳幼児をもつ母親の育児不安についての研究 心理臨床学研究, 25(3), 346-355.
- 宮本純子 (2013). 乳幼児をもつ母親の自己決定感が時間的展望と育児不安に及ぼす影響 心理学研究, 84, 176-182.
- 内閣府 (2006). 平成 18 年版国民生活白書 東京: 社団法人時事画報社
- 名越清家・小高洋子 (1997). 乳幼児を持つ母親のライフコースと育児不安 福井大学教育学部紀要, 53, 52-72.
- 大日向雅美 (2002). 育児不安 こころの科学, 103, 日本評論社, 9-15.
- 下田優子・石井美由紀 (2021). 子育て期の親におけるワークライフバランス及びワークファミリーバランスに関する文献検討 ―促進要因と阻害要因に着目して― 京都橘大学研究紀要, 47, 215-233.
- 白井利明 (1991). 青年期から中年期における時間的展望と時間的信念の関連 心理学研究, 62(4), 260-263.
- 白井利明 (1994). 時間的体験尺度の作成に関する研究 心理学研究, 65(1), 54-60.
- 白井利明 (1995). 時間的展望と動機づけ 心理学評論, 38(2), 194-213.
- 武田京子 (1998). わが子をいじめてしまう母親たち ミネルヴァ書房
- 田中文子 (2001). 21 世紀の子育てのあり方 現代のエスプリ, 408, 194-203.
- 鶴田一郎 (1998). 「生きがい」の心理学へのアプローチ―「生きがい」という言葉の意味と, 「生きがい」の心理学の目指すもの 人間性心理学研究, 16(2), 190-197.